

鐘華会九州支部だより

九州支部だより 第 29 号

発行 2015 年 11 月 25 日

発行人 中村 晃

平岡君とファミリーヒストリー

池 野 治 彦

私の友人の平岡君兄弟の家系と、安川家との関わりを述べてみたい。

平岡君は、私が京都の府立二中から中国山東省の青島日本中学に転校して以来の同級生である。

当時は、既に国民政府との闘いが始まっていたが、青島は治安も良く、かつてはドイツの租借地だったので、建物はドイツ風で、アカシアの街路樹が美しかった。避暑地としても有名で、欧米人も多く住んでいた。

平岡君の父上は、綿花の商社を経営していた。彼が小学生の時に、一時帰国したが、鐘紡の京都工場の社宅を借りて住んでいたそうである。

彼は、近くの小学校に通学した。カネカの創業者である中司社長も、平岡さん一家の事は良くご存じであった。中学三年生の12月8日に英米と開戦した。次第に戦局も厳しくなってきた。卒業後の内地での進学では夫々が悩みを抱いていた。当時は、日本男子たる者は軍人になって、国家に尽くすのは当然であった。

私は近視なので、陸軍士官学校や海軍兵学校は断念して、東京の陸軍経理学校を受験したが、幸運にも合格した。入学の為に乗船した航海の途中で、米国潜水艦と自衛したが、無事に母港に一時停泊してから神戸港に到着した。京都では祖父と祖母と別居して上京した。

平岡君とは、中学卒業後は、戦中戦後の混乱期で、音信不通だったが、カネカに入社してから、彼が日立造船の技師になっていることを知った。それからは、同窓会などで交流を再開した。彼の5歳上の兄さんも同じ日立造船の福社長であった。その後、平岡君は安宅工業の専務になったが、退職後は鎌倉の自宅に住んでいる。彼の兄さんは日立造船を退職後は東京で、豪州との貿易事務所を設立した。その頃、お二人の御兄弟とは、同窓のよしみで交流を深めた。又、お二人の御夫人たちとも、親しくして頂いて、海外旅行などを家内共々御一輔したこともあった。

その頃、彼の兄さんのお宅に伺ったときに、頭山満が揮毫した掛け軸を拝見した。結婚の祝いに貰ったそうである。頭山満の名前は、戦前の右翼の巨頭であることは知っていた。それから、平岡家は福岡県が故郷であることも知った。又、奥様が九州の安川氏の方であることも知った。署名な



平岡 浩太郎

ピアニストの安川加寿子さんは、奥様の弟さんである安川定雄氏の奥様であると同った。

玄洋社と安川家、平岡家の関係について、以下は、私が調べた幕末から明治時代に遡る御両家の関係である。

安川財閥の創業者は、安川敬一郎氏である。彼は1849年に福岡藩城下に生まれた。藩校の修猷館に学び、藩に仕えたが、1872年、明治5年に慶応義塾に入学した。ところが、彼の兄が佐賀の乱で戦死したので、途中で退学した。帰郷後は、炭鉱経営に着手した。1889年明治29年には、私の友人の平岡君の祖父になる平岡浩太郎と共に赤池炭鉱を開発した。1889年、明治29年には門司に事抒所を設置、その後支店を東京、神戸に拡大した。

同志的なつながりがあった平岡浩太郎により、1881年、明治14年に玄洋社が創設されると、その社員となり、安川の炭鉱経営による豊富な資金が、その後の玄洋社の活動を支えた。中国で辛亥革命が起こると、頭山満の大きな反対をも顧みず、安川浩太郎は孫文を東京に迎え、自分の隣家を孫文の隠れ家に借りて4年間、毎月孫文に5百円の生活費を提供していた。

1912年、大正元年には、反袁世凱を掲げて、中華民国前臨時大統領として、日本に亡命してきた孫文が戸畑の明治専門学校に「世界平和」と書いた書を贈った。

次の世代の安川第五郎氏は安川敬一郎氏の五男である。1886年、明治19年生まれで1976年、昭和51年に亡くなっている。三男の国文学者の安川定男氏の妻が、ピアニストの安川加寿子さんである。

平岡君の兄の奥様は、安川定男氏の姉であると同ったように思うが、確認できていない。



安川 敬一郎

黒崎の再生を目指して

上野 與志隆



昭和 38 年、地理的、自然的に異なった環境で、歴史的に異なる伝統と文化風土の下で形成された門司、小倉、戸畑、八幡、若松の 5 市が対等合併した北九州市は、「多核都市」を基調として成長、発展してきた。

しかし、合併後四半世紀経ち、経済環境の変化、福岡などとの都市間競争も厳しくなってくると、都市が存立発展のため必要とする「都市機能の強化（都心部の形成）」という視点が都市経営上重要となってきた。

そこで、北九州市は昭和 63 年ルネッサンス構想を打ち出した。本構想の全容は別として、そのまちづくりの方向としては、「『多核都市』から『均衡に配慮した集中型都市』への転換」を前面にだし、「骨格となる都市軸の設定」、「都心、副都心の整備」、「地域中心核の整備」を明確に掲げた。「都心・副都心の整備」については、小倉都心、黒崎副都心を決めて、まちづくりを進めることとした。

JR 小倉駅を中心とする商業地域、業務地域、官公庁地域を北九州の都心部と定め、JR 黒崎駅を中心とする地域は、市西部域及び市域外の遠賀川流域と JR 線沿線の地域の中核として、これまでの商業機能を中心とした都市機能を更に高めていく、としたのである。

このルネッサンス構想実現のため、数次にわたる計画が立案、推進された。そして、黒崎の都市整備については、副都心黒崎開発推進会議を設置し、行政と市民、企業、商業、各団体の間を調整しつつ、中心市街地の再開発計画を立案し、都市整備が進められることとなった。そして、黒崎駅西地区再開発、メイン通りの“ふれあいどおり”整備、国道 3 号線バイパス、九州年金病院移転と跡地利用構想立案、撥川再生事業等々インフラ整備を開始した。

ところが、財政上、都市整備計画は市の顔づくりとなる小倉中心の都心部に集中せざるを得なくなり、副都心黒崎の都市整備推進は後回しにされた。駅前商店街では、黒崎そごう、トポス、長崎屋の閉店で、商店街の地盤沈下で陳情に明け暮れた。平成 13 年頃、そごう跡に黒崎井筒屋、井筒屋跡にアネックス百貨店、駅西地区にコムシティ商業施設のオープンなどで駅前周辺の活性化が戻り始めたかに見えた。

平成 14 年になってようやく実現可能な「黒崎再生 10 ヶ年計画」が作成された。これは、企業空地を利用する等、経済性のある案で、黒崎駅前から南の動線を延ばし、そこに健康・福祉機能、文化・交流拠点の開発、新集客ゾーン開発と都市居住機能を充実させることに重点が置かれた。



ところが平成 15 年になって、駅西地区再開発の目玉のコムシティが破綻し、三つあった映画館もすべて閉館と事態は厳しく、なかなか思うよう



な活気を取り戻すことが出来ないまま、黒崎商店街の地盤沈下が甚だしく顕在化してしまったのである。

それでも、市は着々と都市整備を行った。しかし小売業を中心とした商業機能の強化に向けての具体策がなく、駅前商店街の再生を進める計画は進まなかった。まちの中核である黒崎駅前のコムシティも廃墟ビルのままで、寂しい商業都市副都心黒崎となった。

此の頃小生は家の裏にあるお宮の手伝いをしていた、たまたま大相撲九州場所の時に間垣部屋を境内に誘致して街の賑わいづくりの役にでもたてばと思って準備していた。これが副都心開発推進会議の高田会長の耳に入り、平成 17 年この会議に入会して推進することとなった。平成 19 年には急に副会長にさせられ、「再生 10 ヶ年計画」に続く「中心市街地活性化基本計画」の立案プロジェクトに参加した。また高田氏の体調も思わしくなく、平成 20 年からは会長代行、翌年には会長にさせられてしまった。

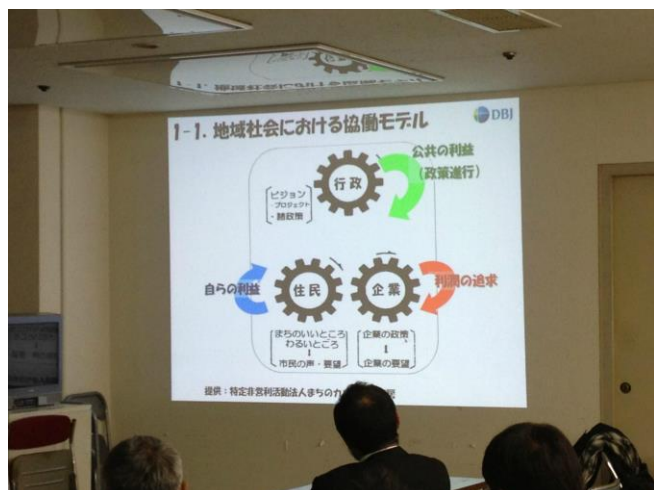
この中心市街地活性化プログラムは総理大臣認定の事業で、平成 20 年の夏認可され、市と商工会議所が中心となって協議会を作り、商業機能の強化に注力した。ハード面では行政が中心となってコムシティ再生の他、撥川再生事業、文化・交流拠点における多目的ホール、図書館設置、道路・公園整備等「再生 10 ヶ年計画」の残事業に

取り組み着々と実績を上げた。

私もそれぞれの都市施設の完工式には立ち会った。ソフト面では、シャッター通りの駅前商店街活性化を企画して積極的に進めていたが、肝心の商店街店主は街の再生への積極性は見られない。どこのまち起こし活動とも同じく、よそ者、若者、馬鹿者がまち活性化に汗を流した。“黒崎宿場祭り”、“よさこい祭り”、“あかりフェスタ”、“子供店主の仕事体験”“くろフェス”等々多くのイベントを定着させ、集客の種を作り、それなりの「中心市街地活性化」の効果は出た。

しかし、イベントでの人通りは増えたが、商店街の売り上げには一向に繋がらず、依然として商店のモラルは低いままであった。この集客を如何に商店街への回遊性に繋げるかが重要な課題となった。「中心市街地活性化」の活動の 5 年が終わるころ、我々開発推進会議では別に独自で、副都心黒崎再生の戦略作りに並行着手することとしたのである。何故なら、周辺に大型店舗が整備された駅前商店街は、今や小売業の商業者の集合地域のみではなく、この場所をイベント広場として利用し、何らかの形で流通サービス、生活サービスの拠点にして、新しいコミュニティビジネス等が始まり、住民が利用する空間になれば良いと考えるようになったからである。





平成 23 年春には「私がデザインする夢の副都心黒崎」の絵画展を行い、ルネッサンス構想以降の都市整備計画についてレビュー・評価する勉強会を続けた。廃墟のままのビルの「コムシティ再生要望書」を市長に提出して行政と再生案を検討し、区役所やその他生涯教育施設や商業施設の入る複合施設として再生することにした。翌年には駅前の活性化が目に見えるようになってきた。

更に「ビジョン作成委員会」、「まちづくりマネージャー養成塾」を設置して、子供から大人に亘る住民アンケートを分析して、“黒崎の未来図、ビジョン”を作ったり、まちづくりの課題発見・解決の能力向上やマネージング技術向上等リーダーの育成を図ることに努めた。その発足3年目には、ビジョン委員会の報告をもとに、黒崎が単なる生活拠点都市としての位置づけに止まらず、高次広域拠点都市としての実力を備えた都市にするため“新しい副都心のコンセプトを構築する”ことを目的として、まちづくり戦略の立案に取り組んだ。半年以上かけて、隔週の週末、夜 6 時半から 9 時半までのカリキュラムの後、夜中の 1 時頃まで異業種の若者の討論会に私自身も加わった。そして、平成 27 年春「“タウンシップ宣言”という副題のついた『新・黒崎まちづくり戦略』」を立案し市長に提案した。現在その具体策の立案に注力しているところである。

小生は、平成 27 年 7 月市長に提言したところで、力尽き 7 月末日の総会で次の利島会長（商工会議所会頭、安川電機特別相談役）にバトンタッチした。今の心境は只ホットしている。あとは若者たちが引き続き活性化に突き進んでくれるものと信じている。会長就任総会挨拶で申し上げた『用之即行舎即休 此身浩蕩浮虚舟』を実行したまでである。

先日、私の慰労会に出席して、皆の目の輝いているのを見て安心した次第。市・行政が色んな都市整備を行おうとしても、肝心の地元の地域力が伴わなければ、どの街の再生も効を奏さないということを厭というほど味わわされた「まちづくり」であった。

*インターネット「副都心黒崎開発推進会議」ホームページ参照



近 況 報 告 （ 例会返信 ）

（ 欠席 ）

坂元 均 桜島、口永良部島の大噴火が心配されてきましたが、最近ではパツパツと納まっています。仕事 70%、趣味 30% 変わりありません。

西村 和夫 ホテル・ポート門司の窓から運が良いと潜水艦が見えるらしいですね。探してください。

池田 広治 相変わらず諸事多忙にしています。来年の後半くらいには一線を引こうかと思っていますが。

永井 辰夫 9月に晴れの日が少なく、稲の登熟が進まず、稲刈りがまだ始まりません。TPP 交渉が終了し米の価格がどうなりますやら心配です。

小林 憲二 9/25 に高砂工業所でカネパール 50 周年記念式典に参加してきました。諸先輩も参加され当時の思い出話で盛り上がってきました。また、10/8 にカネライト 45 周年のカネライト会が台場で行われ、代理店の皆さんと共に歴史に感動してきました。人生の流れは速いものですね。

武田 敏光 1 回/月のゴルフを続けております。元気にしています。次回は是非参加したいと思っています。

山中 俊一 2 回/週のゴルフ練習とウォーキングに勤しんでおります。

園 博 6 月でカネ食との契約が終わり、7 月より (株) グローブのお世話になることになり、九州一円の食品会社への営業として、今しばらくは頑張りたいと思っています。

成相 定雄 この夏、愚妻に先立たれました。想定外のことでしたので、様々なことに振り回されました。此の頃やっと落ち着いてきたところですが、今回は失礼させていただきます。

岩出 進 地域での用事があり参加できません。健康体力維持のため、相変わらずテニスを楽しんでいます。

上野 賢二 元気にしています。

常森 喬紀 相変わらず貧乏暇なしで走り回っています。まあ、性分だから仕方がないか、割り切っていますが一。今を生きなくていつ生きる。ここで生きなくて、どこで生きる！などと、ブツブツ言いながら一。でもお蔭様で、元気だけが取り柄。ありがたいことです。皆様のお顔を見たい！と思いつつ、日々の過ぎることの速いこと！

（ 出席 ）

上野 興志隆 この 7 月で、一応の公職を解放され、家に居ることが多くなり、腹が出てきました。今からゴルフに明け暮れます。

石原 晋一郎 85 才になり体力的にも中々活動出来ないのが実情です。断熱材も安定していますし、カネカロンも何とかカネカの事業の足を引っ張らない様になっていますので、その点では私も満足をしています。今後は出来る範囲で支援はいたしますが、毎回の参加は出来なくなると思います。それで、今回の例会は出席しますが、皆さんにお礼と今後の活動を期待して、ご挨拶をしたいと思います。

真部 邦則 エペラン関係の OB 会で皆さんが大分を訪問してくださいました。(10 月 10、11 日) 車で強硬な旅でしたが、大分の良さをアピールできたものと考えています。これからも毎年元気にお会い出来ることを楽しみにしています。

橋本 滋 午前中は、体の為スイミングに通い、午後は、パソコン相手に認知症予防に効果があるといわれる囲碁・将棋。何の変哲もない毎日を過ごしています。

川上 義人 骨粗しょう症と老齢により身長が 6 cm 縮んで 156 cm、体重も 11 kg 減って 48 kg になって、ゴルフの飛距離が全く出ません。そこでオーバースイングになって方向が安定しません。月 3 回位のラウンドと、打放しも週 2 回位はやっています。

廣政 誠 春日神社の秋神幸祭の裸坊に出ました。但し御輿の側を歩くのみ。年寄と子供の多いのが心配。

市木 丞 日々明るく楽しく元気に過ごしています。

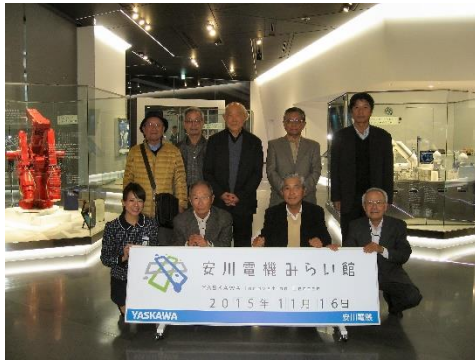
檜崎 賢治 どうか生きとります。

竹内 久善 「HAWKS ベースボールパーク筑後」は 9 月末のテレビ報道後、現在急ピッチで工事が進み、“野球場施設を作っている”という環境になってきました。1、2 軍とも連覇は確実であり、来年からは練習風景を直に見られニューヒーロー誕生を楽しみに若手中心に応援していきます。

王寺 常雄 先日は芦屋荘での S37 同期会に行ってきました。年々少なくなってきましたが、来年も元気で会おうよということになっております。

中村 晃 10 月末上京したが、人が多く交通機関の乗り換えなどで、座骨神経痛に悩まされました。

平成 27 年支部例会報告



< 安川電機の見学 >

11月16日午後2時30分、J R黒崎駅で待ち合わせ。そこには私設の「黒崎神社」があり安川製のおみくじロボットが占いをしていました。なんだか期待が持てそうな気がしてきましたが、如何に。場所は黒崎駅から歩いて数分、ロボット村（事業所全体一商標登録済）を訪ね、村にある「みらい館」と「工場」の見学をしました。

（1）みらい館（イノベーションセンター）

丁度創立100周年記念を迎え安川の歴史等のビデオを見ましたが、<武士道プロジェクト>で居合の達人に生徒のロボットが同時に居合切りを行うところは迫力満点でウォーの声があがりました。

その他、国内初全電気式産業用ロボットから最新鋭のものまで数多くありました。

（2）工場

ロボットがロボットを作るところ、即ち部品から組立・最終検査までの工程。

しかし、知能を活かして汗をかく人間との共生作業が不可欠です。

感想としては労働人口減少・危険作業・省力化・自動化など未来は大きく広がって行く気がします。老化した私達でさえ興味が湧くので若い柔軟な頭脳の子供たちが見学すれば、将来に向けて大変有益な所です。

（但し個人単位で申し込みが出来ないのが残念）

「副都心黒崎開発推進会議」の前会長の上野與志隆さんの尽力により、安川電機の対応も一段と良く大変有意義、且楽しい時間が持てました。



< 例会・懇親会 >

関門海峡の門司側で原会長のカネカ・鐘華会の現状などを聞き、素晴らしい下関夜景を眺めながら、美味しい魚料理・お酒を満喫しました。

廣政 誠 記

第 14 回山九会ゴルフコンペ報告

- 開催日時：平成 27 年 11 月 17 日（火）
- 場 所：門司ゴルフクラブ松ヶ江コース
- 成 績：成績： 天候：雨

順位	氏 名	HD	順位	氏 名	HD
優勝	廣政 誠	20.4	6	池野 治彦	33.6
準優勝	上野 與志隆	22.8	7	橋本 滋	36.0
3	真部 邦則	24.0	8	坂本 正志	32.4
4	川上 義人	26.4	9	原 哲郎	21.6
5	王寺 常雄	33.6			

4. 講 評

- ① 天候朝から雨でどうしよう。取りあえずゴルフへ。取りあえず着替えて。取りあえずハーフでも。取りあえず最後まで行くか。と、とうとう完走。門司ゴルフクラブは名匠上田治設計の松林に覆われた難攻不落の名門コース。9 名が 100 切めざして、REG.6464 ヤード、GOLD.6187 ヤードに挑戦した。成績スコアは取りあえず除外だが、広政選手はグロス 100 切り、ローHDでの優勝は見事。賞金はにこにこ受け取るも、ところが、賞品の宝石は「俺運び屋か」と荷物をしゅしゅ持ち帰り。次回忘れずに持ってきてね。
- ② 一組は、原、上野選手ドライバーの飛ばし合いを演ずる。但し上野はゴールドから。年更重ねる池野選手はマイペース、パットは若者のように思い切り良く入る。ロングヒッターの原選手、今日は全ホール、バンカーツバンカーで雨の挽歌となる。
- ③ 二組は、広政、橋本選手意地の飛ばし合いは、ショートまでに及ぶ。ホールインワン恐怖症の橋本、今回は手を上げたようだ。グリーンでも橋本、王寺選手でパターの外し合いを演じたそう。ついにキャディの河プロ（男子）も、選手に有無を言わせないクラブ選択、無言の手渡し、後半は勉強会の様子。
- ④ 三組は、川上、真部選手？嘆きのわめき合い。週 3 プロの真部選手は九州帰郷後今回始めてづくしか。それはアウト・イン同時 50 代スコアを出したこと。雨の中で 18 ホール完走したこと。そんなこと他人から見れば日常だ。坂本選手の力量アップの話は聞けず、只ニコニコ顔は、もう少し時間を下さいと云っている様子。
- ⑤ 「マア、今日は良いゴルフ場を廻っただけでも吉として、雨の中の完走だからスコア無しにしよう！」が 結語であった。
- ⑥ 集合写真はアントニン・レーモンド設計クラブハウス（有形文化財）の入り口付近階段で。

上野 與志隆 記

【平成27年度支部活動報告】

年	月	日	活 動 内 容
27	01	26	(鐘華会全体役員会)
	02	01	(鐘華 72 号)
	02	13	支部幹事会 (黒崎にて)
	04	06	博多まち歩き・懇親会 (11 名)
	04	07	第 13 回山九会ゴルフ G C (玄海 G C 8 名)
	05	15	支部だより 28 号発行
	08	01	(鐘華 73 号)
	09	01	支部幹事会 (福岡)
	11	16	第 16 回支部総会 (北九州 14 名)
	11	17	第 14 回山九会 G C (門司 G C 9 名)
	11	25	支部だより 29 号発行

(特記事項)

- * まち歩き、第 13 回山九会 G C は支部だより 28 号に記載。
- * 支部例会、第 14 回山九会 G C は支部だより 29 号に記載
- * 会員の異動
なし。

【27年度支部活動費半期実績】

項 目	26 年実績	27 年予算	半期実績
支部だより関連	11,987	14,000	6,666
例会通信費	4,289	6,000	0
例会写真代他	627	1,000	0
春の行事関連	3,976	5,000	4,210
幹事会交通費補助	4,000	4,000	0
その他	0		0
合計	24,879	30,000	10,876

(特記事項)

- * 特になし

【定例役員会報告】

◇平成 27 年 8 月 3 日、カネカクラブにて定例役員会が開催された。

◇主な内容は下記の通りです。

① 原会長挨拶

- ・顕在化する様々な課題に対して、スピード感を持って取り組むために今年から運営検討委員会を始めた。

鐘華会が直面する問題点として、活動がマンネリ化、あるいは一部の限られたメンバーに偏り、結果的に若手の参画や新しい取り組みが生まれにくくなっている。一方で雇用延長に伴う入会時期の遅れや入会者の減少、また鐘華会に対する期待や評価の低下など、このままだと関係先からのサポートや関心が薄らいでしまう懸念があります。そのため 10 年スパンで今後を見通し、会の活性化に取り組んでいきたい。

カネカで人生を共にした者が帰れる古里・鐘華会が元気で存続し幅広く会員同士が繋がりを持てるようにしていきたい。

② 各支部の活動報告と今後の計画 (特記事項のみ)

(高砂)

- ・役員交代により平均年齢が 60 代に下がった。

(大阪)

- ・定年再雇用者のために行事開催日を土曜に増やし、参加を促進する。

(滋賀)

- ・支部活動費は後期に発生する。

(鹿島)

- ・7 月 2 日に例会を開催。会員 18 名が参加した。

(東京)

- ・7 月 6 日、例会に特別参加者として女性を呼んで、大変盛り上がった。

(本社)

- ・各同好会が、活発に活動している。特に「日本の心 視て歩き」「ワイガヤ会」「写真同好会」が活発。

あとがき

- ・名誉会員の池野さんに古里が九州の友人とその家系について書いてもらった。例会で訪問した安川電機の創始者 (安川敬一郎) と関係があり、タイムリーな記事となった。
- ・上野さんの「副都心黒崎開発推進会議」に対する取り組みには、本当に頭の下がる思いである。
- ・ゴルフは、雨の中で最高齢の池野さんを含めて完走。びっくりぼん！です。きっとゴルフの神様が、そのうち褒美をくださることでしょう！写真は掲載出来なかったが、次の「鐘華」に載せます。
- ・真部さんから来年の例会を豊後竹田でやったらどうかとの提案があった。竹田の薪能は魅力だが、例会となると日程的に無理かもしれない。有志で行くことも検討したい。春の行事や秋の例会を何処にするか幹事も苦労しているので、皆さんどんどん提案してください。